

2012年度渋沢・クロードル賞は、歴史家であり、東京のリセの教諭であるマチュー・セゲラ氏に授与されました。

2012年9月26日、第29回渋沢・クロードル賞授与式がパリの日本大使公邸で行われました。受賞者のマチュー・セゲラ氏は、2011年のパリ政治学院での博士論文「ジョルジュ・クレマンソーと極東」の成果を認められ、この賞に選ばれました。歴史家であり、数々の研究の著者である氏は、東京国際フランス学園の教諭であり、学園生活にも大きく寄与しています。

写真の説明

1枚目のみ

左からモニック・スリジエ＝ベン＝ギィガ（在外フランス人協会会長）、アンヌ＝マリー・デコート（フランス在外教育機構 理事長）、マチュー・セゲラ氏、エレヌ・コンウェイ＝ムレ（外務大臣付在外フランス人担当大臣）在フランス日本大使館撮影

渋沢・クロードル賞

この賞は、日本とフランス両国間の文化的、学術的関係を発展させるために1924年に創設された日仏会館の創設者二人の名前を冠しています。一人は明治・大正時代における実業家、銀行家で日本の近代化に大きく貢献した渋沢栄一氏（1840－1931）であり、二人目はフランスの作家、外交官であり、1921年から1927年に東京のフランス大使館の大使を務めたポール・クロードル氏（1868－1955）です。

賞自体は、1984年に毎日新聞社によって創設され、日本とフランス両国の若手研究者の中で、際立った成果を残した学術的研究作品、および日仏両国語における翻訳作品に対して贈られています。そして、2008年以降は、世界でも最大の発行部数を持つ読売新聞と東京の日仏会館により運営されています。

2012年パリの日本大使公邸での授賞式及びレセプション

マチュー・セゲラ氏は、「ジョルジュ・クレマンソーと極東」という博士論文が高く評価され、この賞を受賞しました。この博士論文は、パリ政治学院（シアンスポ）のモーリス・ヴァイス教授の指導のもと、2011年に口頭審査が行われ、審査委員長のジャン＝ノエル・ジャヌネ教授は、審査員全員の祝辞と共

に最高の評価を授与しました。

パリのフォーブル・サントノーレ通りにある日本大使公邸のサロンには、小松一郎日本大使の他、受賞者の元に大勢の人々が集まりました。

以下、主な参列者の方のお名前をアルファベット順に。(敬称略)

- ・マリアヌヌ・バスティ＝ブリュギエール 人文・社会科学アカデミー会長
- ・モニック・スリジエ＝ベン＝ギガ 元上院議員、在外フランス人協会 (ADFE) 会長
- ・フランソワ・クローデル ポール・クローデル氏の孫
- ・エレヌ・コンウェイ＝ムレ 外務大臣付在外フランス人担当大臣
- ・アンヌ＝マリー・デコート フランス在外教育機構理事長
- ・リズ・ドゥヴィナ クレマンソー記念財団会長
- ・ジャン＝ノエル・ジャヌネ 元閣僚、パリ政治学院名誉教授
- ・クロディーヌ・ルパージュ 上院議員、在外フランス人代表
- ・松浦晃一郎 日仏会館理事長、元駐フランス日本大使、元ユネスコ事務局長
- ・二宮正之 渋沢・クローデル賞審査委員、ジュネーヴ大学名誉教授
- ・クリスチャン・ソテール 渋沢・クローデル賞審査委員、元閣僚、パリ市助役
- ・ルイ・シュバイツァー フランスイニシアティブ会長、外務大臣特命により日本担当
- ・竹内佐和子 パリ日本文化会館館長
(マチュー・セゲラ氏は2013年2月22日に、日本文化会館で“クレマンソーと日本”をテーマに講演を行います。)
- ・パスカル・テラス 国民議会議員、日仏友好協会メンバー
- ・モーリス・ヴァイス パリ政治学院名誉教授
- ・リシャー・ユング 上院議員、在外フランス人代表

マチュー・セゲラ氏、研究者、及び教諭

マチュー・セゲラ氏は、博士論文をきっかけに、パリのギメ美術館によって開催される展覧会“東洋の魅惑、ジョルジュ・クレマンソーとアジア”(2014年3月12日から6月16日まで)の学術委員に任命されました。

以前セゲラ氏は、フランスのモンペリエとパリ近郊で教鞭を取っていましたが、すでに2冊の本を出版しています。

「ペタン・フランコ 秘密の同盟」(アルバン・ミッシェル社 1992年)

「モンペリエ 家族のアルバム」(オルバー社 1994年)

氏は東京フランス国際学園の歴史・地理の教諭として在勤12年目で、生徒達が住んでいる国や地方をより理解するために、歴史・地理のプログラムを適応させるように尽力しました。氏は国際バカロレア選択コース(OIB)も担当しています。

また、2006年からは学園新聞“アジア”を生徒達と発行し、参加するリセはアジア・太平洋圏の15校以上に及びました。